国 語 科 学 習 指 導 案

指導者　広島市立○○小学校
教諭　○○　○○

１　日時　　平成 21 年９月○日

２　学年・組　　第４学年○組

３　指導事項

（１）読むこと　ア
　・いろいろな読み物に興味をもち、読むこと。
（２）言語事項　(1)オ（イ）
　・文章全体における段落（場面）の役割を理解すること。

４　単元名　　**愛の心をえがいた物語を読もう　　「世界一美しいぼくの村」**

５　言語活動

・　読書会をすること
・　テーマ読書をすること

６　単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○　愛の心を描いた読み物に興味をもってすすんで読もうとし、読み取ったことを，伝えようとしている。	○　愛の心を描いた物語に興味をもち、読み取ったことを生かして幅広く読書をしている。	○　文章全体におけるそれぞれの場面の役割を理解し、構造をつかんでいる。

７　単元について

○　児童の状況

本学級の児童は、読書をしたり読み語りを聞いたりすることが好きである。しかし、読書量には差があり、７月までの読書冊数は 100 冊を超える児童から、十数冊という児童までいる。読むジャンルも幅広い児童から、自分の興味をもつものに限られる児童と、様々である。文字を読むこと自体が苦手な児童や、友達と一緒に活動することが困難な児童もいる。

昨年からこれまでに文学を扱った授業では、作品の構造をつかむ構造シート（「作品の星座」）作りと、自分の読みを表現する活動である「語り」を取り入れた学習をしてきた。

事前アンケートによれば、構造シート作りは 79％の児童が「好き」「少し好き」と答え、「お話全体の仕組みが分かる」などの理由を挙げている。「語り」は 86％の児童が「好き」「少し好き」と答え、「自分なりの感じ方を伝えられる」ことや、「いろいろな感じ方が分かる」こと、「緊張するけど達成感がある」等の理由から、意欲的に取り組んでいる児童が多い。まだ十分慣れるまでには至っていないが、少しずつ物語の構造をつかみ、自分なりの「語り」で表現することができるようになってきた。しかし、一方で「難しいから」と言う理由や、「自分の思うように覚えて語ることができないから」という理由で「あまり好きではない」「好きではない」と感じている児童もいて、叙述に即して読み取る力や、読み取ったことを表現する力は十分とは言えない。

更にこの結果を分析すると、構造シート作りや「語り」が「よくわかるから好き」「いろいろな考え方がわかるから好き」と感じている児童ほど読書量が豊富なこと、読み取る力が読

書生活に大きく関わることがわかった。いろいろな感じ方の交流により、読書生活への意欲化を図る必要性を感じた。

○　教材の価値

・　教材文「世界一美しいぼくの村」

「世界一美しいぼくの村」は、戦争を背景にして、家族や郷土への愛が描かれている物語である。冒頭で作品の設定が書かれ、続いてヤモの目を通して人物の行動や美しい村の様子が描かれ、唐突に訪れる最後の一文によって読み手に大きな衝撃を与える構成になっている。児童は、最後の一文により、平和で愛にあふれる日常が一瞬で壊される戦争の恐ろしさなどを想像し、幅広く読書することの意義を感じることが期待できる。

・　「読書会をすること」

読書会とは、特定の本を読んで、その本をどう読んだかを複数人で話し合う活動である。読書会を行う意義として、友達の読み方を知ることで新しい発見をしたり自分の考えを深めたりすることができること、読書への興味を深めることができること、考えながら読書をする習慣がつくことが期待できる。

・　「テーマ読書をすること」

テーマ読書とは、テーマを決めて読書する活動である。読書範囲の広がるこの時期に、家族への愛、友だちへの愛、命あるものへの愛などの、愛の心を描いた本を読み広げることで、豊かな感受性や思いやりの心を育み、読書の楽しさを味わうことができるようにしたい。

○　指導の工夫

・　読み取ったことを交流する楽しさを感じられる場の設定

指導に当たっては、友達と読み取ったことを交流することは楽しいことであるという雰囲気を大切にしていきたい。まず、愛の心を描いた本を選び、友達と読書会という言語活動を行うというゴールとその意義を知らせ、教科書で紹介されている本を教室に置き、愛の心を描いた本を読み広げることに意欲をもたせる。そして「世界一美しいぼくの村」の読み取りの交流をしながら学級全体で読書会に向けての観点を与え、その後に選んだ本の読書会をグループで行っていく。

・　年間を通して既習の力が活用される場の設定

教材文読解の際には、まず構造シートを使って全体構造を大きくつかむこととし、本単元でつけた力が他の物語を読む際にも活用されることを重視していきたい。次に「語り」を取り入れながら自分の読みを表現していく場を設定する。読解の最後に、本文の書き方等について熟考・評価する場を設け、児童に能動的な読みをする力をつけていきたい。

構造シートを作成する際には、人物・時・場所の設定と山場（クライマックス）を押さえ、物語の基本場面をとらえる。また、物語を短く表すことで構造的に作品をつかみ、自分なりに作品から強く感じたこと（「作品の心」）を考えていけるようにしたい。この構造シートの作成により他の作品と構造の比較ができる。児童にどの物語にも活用できる自力読みの力をつけることをねらっている。

・　「語り」を通して読解を深める場の設定

第三次では、大きくつかんだ構造シートをもとに、叙述を味わうために「語り」の交流を取り入れる。「語り」とは原文を暗誦し、作品の叙述に即して場面の様子や気持ちを想像し、音声言語によって相手を意識して表現することである。これを取り入れることで、児童が意欲的に読み取ろうとする効果と、「語り」をするために精一杯の読み取りをし、それを自分なりに表現し、友達と交流をすることで自分の読みや考えを深めていく力を育てることをねらっていきたい。「語る」ために読み、読みが「語り」になって表れると考える。

本時は、ヤモの春への期待と最後の一文の意味することについて「語り」を通して読み取る。読み取る手だてとして、ワークシートに、人物の気持ちや音読記号・顔マークなどを書き込ませ、その自分の読みと比べながら、友達と「語り」を聞き合ったり意見交流し

たりできるようにする。ペアやグループでの話し合いを取り入れ、一人一人の活動を保障したい。「語り」については、聞き手への意識を強くもたせるための視線、作品世界の表現としての声量、表情、間の４つの観点を示し、「目力（めぢから）・声力（こえぢから）・顔力（かおぢから）・間」という言い方で児童に意識づけてきている。

グループごとの読書会でも、選んだ本の「作品の心」と「語り」を取り入れ、教材文の学習を生かした話し合いにしたい。

８　単元の学習と評価の計画

次	時	学　習　活　動 （評価方法）	観点 国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
一	1	題名読みの後、全文を通読して感想を発表し、学習の見通しをもつ。 （発言、ワークシート）	○		
	2	愛の心を描いた他の作品について知り、テーマ読書への意欲をもち、その中から選んで読む。（行動観察）	○		
二	3	作品の構造（人物・時・場の設定と場面設定）をとらえ、物語を一文で表すことで構造的に作品をつかむ。（ワークシート、発言）			○
	4	自分なりの主題（「作品の心」）を考え、場面ごとに「作品の心」と関わる文を選んで、「語り」の観点から書き込みをする。 （ワークシート、行動観察）		○	
三	5	ヤモの家族を思う気持ちを、「語り」を通して読み取る。 （「語り」、発言、ワークシート）		○	
	6	ヤモの村を思う気持ちを、「語り」を通して読み取る。 （「語り」、発言、ワークシート）		○	
	7	ヤモの春への期待と最後の一文の意味することを、「語り」を通して読み取る。**【本時】**（「語り」、発言、ワークシート）		○	
	8	この続き話を知り、最後の一文を違う書き方と比較することで、本教材の書き方について熟考・評価する。（ワークシート、発言）		○	
四	9	自分の話し合いたい本を選択し、読書会の計画をたてる。 （行動観察）	○		
	10 11 12	グループごとに読書会を行う。 （発言、行動観察、「語り」）		○	
	13	発表会を聞いて感想を伝え合う。 （「語り」、発言）		○	

＊準備物　　ワークシート、掲示用資料、テーマ読書用図書

９　本時の目標（読む能力　三次７時）

○　ヤモの春への期待と、急展開する最後の一文の意味することを、「語り」を通して読み取り、話のおもしろさを味わうことができる。

10　本時の学習展開（読む能力　三次７時）

学習活動	指導上の留意事項	評価･評価方法
子羊に「バハール（春）」という名前を付けようと思ったヤモの気持ちと、最後の一文について、「語り」を工夫しながら考えよう。		
１　どのように「語る」か、「語り」の観点から考える。 **○　各自でワークシートに書き込みをする。** 【「語り」の観点】 目線（目力）・声量（声力）・表情（顔力）・間 **○　ペアで理由を挙げて話し合う。** ・　ヤモは春を楽しみにしているから、「バハール」をにっこり顔で語るよ。 **２　「語り」の観点を意識しながらグループで「語り」の工夫をする。** ・　明るい声から暗い声にしよう。 ・　急に暗い場面になるから「その年の冬」の前で間をあけて、悲しい顔で語ろう。 **３　「語り」を聞いて話し合う。** ・　表情を変えたり間をあけたりすることで、場面の急激な変化が分かるね。 ・　「バハール」には、ハルーン兄さんが帰ってくるというヤモのうれしい期待が感じられる。 ・　最後の一文で、戦争は美しい村もヤモの夢も、破壊したんだ。 ・　なぜこんな終わり方をするのだろう。 **○　この後について考え、次時への見通しをもつ。** ・　ヤモたちはこの後、助かったのだろうか。	○　感情や間の入らない教師の音読を聞かせることで、「語り」の工夫への意欲付けを図る。 ○　「語り」の工夫とその根拠を書き込むことができるワークシートを用意する。 ○　書くことが困難な児童には、うれしい顔か悲しい顔かを個別に聞き、そう考えたわけを書くことができるよう助言する。 ○　根拠をあげて、実際に「語り」ながら対話ができるように促す。 C：始めの部分と最後の一文での変化を、目線などの観点から個別に聞き、思い切って「語る」よう助言する。 ○　自分の「語り」と比較しながら聞くよう助言する。 ○　父親の言葉や冒頭場面から、「春」へのヤモの期待に気付くことができるようにする。 ○　「語り」の変化に加え、さし絵を活用することにより、最後の一文による落差を視覚的につかませる。 ○　題名や終わり方など、作者への疑問があれば話し合いの話題にし、多様な考えを知ることができるようにする。 ○　自由にこの後について想像させた後、続編の絵本があることを知らせ、読書への興味を深めたい。	A：場面の展開を考えて変化をつけながら「語り」、その理由をヤモの気持ちや最後の一文について読み取ったことを根拠に挙げながら説明している。 B：場面の展開を考えて変化をつけながら「語り」、その理由を説明している。 （「語り」、発言）